

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 英語英文学専攻 修士課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

英語英文学専攻は、建学の精神に基づき、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各分野における専門的研究を通して、幅広い知識と高い理解力、思考力、判断力、研究遂行能力を有し、かつ高度な英語運用能力を持って国際社会に貢献できる人材の育成を目指します。

次のような能力と資質を身につけた修了生を社会に送り出します。

1. 英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、および高度な研究遂行能力。英語学分野では、理論・実証両面からの研究を行うための方法論と知識、さらに研究を通じて得られる、人間の存在の基盤としての言語に対する深い理解、英文学分野では、個々の作家・作品についての的確な洞察力と想像力、およびそれらの背景をなす社会や時代思潮に対する知見と学識を涵養することを重視しています。現代社会とジャーナリズム分野では現代社会の諸問題や現象を社会科学的見地から学際的に探求する姿勢。他分野の研究者との協働や自身の研究成果を通して、国際社会へ働きかけができる人材を育成します。

2. 英語の高度な運用能力と英語英文学の専門的知識をもとに、世界の多様な声に耳を傾け、柔軟に受けとめ、自らの意見を自らの言葉で発信する力。それにより対立や無関心を乗り越えて、グローバル化する世界の一員として他者とつながり協働する態度。生涯にわたり、英語の世界への知的、学問的関心を抱き、主体的に探究し続ける姿勢を身につけることを目指します。

3. 本専攻の修了生は、研究者・大学教員、小学校・中学校・高等学校の教員、翻訳・通訳・メディア関係の専門家として、あるいはその他の社会的・職業的活動において広く社会に貢献を果たすことが期待されます。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 英語英文学専攻 修士課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英語英文学専攻は、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムについて高度な研究を行います。英語学分野は統語論・形態論・音声学・音韻論・意味論・語用論・英語教育学・第二言語習得など多岐にわたります。英文学分野は英語圏の文学を広く対象とし、デジタルメディアと文学、翻訳、エコクリティシズム、韻文と映像などの領域も扱います。現代社会とジャーナリズム分野は社会言語学、談話分析、マスコミュニケーションの政治経済、メディア社会論などを研究します。

以下のような形で教育課程を編成し実施します。

1. 体系的で幅広い学識を培うコースワークと、研究活動の遂行を通して研究能力を育成するリサーチワークとの順次性とバランスに配慮して教育課程を編成しています。コースワークは、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各専門領域を過不足なくカバーするように計画されています。リサーチワークとしては「英語英文学論文演習」を設置し、大学院学生（以下「学生」）が定期的に指導教員の指導を受けつつ、修士論文作成に向けて個別研究を進めることができるようにしており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程となっています。
2. 修了要件（30単位以上）のうち、20単位以上を英語英文学専攻において修得します。また10単位を上限として、英語英文学専攻が承認した本学大学院他専攻の授業科目、ならびに本専攻が承認した、委託聴講制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目を修得することができます。委託聴講制度等の活用により、学生が多角的な視点を身につけるとともに、個別研究の充実を図ることが可能となります。
3. 学生の研究テーマに合わせて、きめ細やかな授業と個別指導を行うのが本専攻の特徴です。授業は論文作成に必要な知識と英語表現力を培い、かつ学生の主体的な参加を促す少人数の演習形式を中心としています。授業においては、学生の発表と全体での討論を重視しています。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 英語英文学専攻 修士課程の学生の受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）

英語英文学専攻は、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、高度な研究遂行能力、および英語の優れた運用能力を大学院学生に身につけさせることが目標です。

本専攻では入学希望者に対して以下の1~4の事柄を期待し、5に示す方法で入学希望者に求める水準等を判定します。

1. 修士課程での研究遂行に必要な基礎知識、論理的思考力、分析力、批判力、創意あふれる洞察力を備えていること。
2. 抽象度の高い内容を英語で理解し、発信する能力を備えていること。
3. 英語で開かれていく世界の多様な文化・社会について、的確に理解し、積極的かつ創造的に発信しようとする探究心に富み、そのために必要な思考力・判断力・表現力を養おうとする、前向きな姿勢をもっていること。
4. グローバル化する世界の一員として、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ意欲があり、修了後には本専攻で身につけた学識や能力、培われた豊かな人間性をもとに、社会への貢献を目指していること。
5. 入学希望者が専攻の求める水準に達しているか否かは、専門科目の筆記試験と口述試験によって判定します。筆記試験では、論理的な英語の文章を正確に理解する能力、やや複雑な内容を英語で表現する能力、および専門領域の基本的概念を論述する能力が問われます。口述試験では、主に提出された研究計画と卒業論文要旨等に基づいてなされる質問に対して、学生本人が論理的な回答を明確に示せるかどうか問われます。英語による質問に対し英語で的確に答える能力も問われます。